



東日暮里幼稚園だより

荒川区立東日暮里幼稚園
／ 荒川区立第三日暮里小学校併設園
発行日 令和元年11月29日
発行者 園長 末永 寿宣

12月号

異年齢交流の取り組み ～年齢の枠を越えて共に学び合い、成長していくために～

本園では、異年齢交流を積極的に行っています。

○異年齢交流のメリット

異年齢の子どもと触れ合うことで、さまざまな刺激を受けられる点が大きなメリットです。例えば年下の子どもの場合、年上の子どもに刺激を受けて、興味や関心の幅を広げることができます。年上の子どもを目標とするため、実力以上の能力を発揮することが期待されます。

一方、年上の子どもの場合、年下にさまざまなことを教えることによって、思いやりの気持ちを育むことができます。さらに、年下の子どものお手本になることで、自分に自信を持つことができるようになることも大きな成果として期待できます。

また、異年齢交流は成長の違うさまざまな子どもが集まる環境で保育を行うため、人の違いを受け入れる力を養うことができます。良好な交友関係を築く方法や、価値観の違いについて考えるきっかけになります。

○指導者も成長する

異年齢交流は、子ども達だけでなく、指導者にとってもメリットがあります。縦割り保育は、通常保育とは異なる環境で保育にあたるため、指導者自身もたくさんの刺激を受けます。異年齢交流を経験することによって、保育の幅をより広げることができます。

体格差があるため、年長の子どもに、異年齢の子どもへの関わり方を教えることも、指導者の大切な業務の1つとなります。子どもたちの成長につながる対応を考えることは、指導者としての成長にもつながることができ、指導力向上・人材育成につながります。

おわりに幼児期にさまざまな人との触れ合いを経験することは、その後の成長に良い影響を及ぼすといわれています。異年齢交流は年齢の異なる子どもと触れ合って成長するチャンスです。

東日暮里幼稚園の全ての教職員が、さらなるスキルアップを目指して、実践を積み上げてまいります。保護者の皆様、地域の皆様の変わらぬご支援をよろしくお願い申し上げます。



▲今年度は、異年齢交流を積極的に行おうと、年度当初に異年齢ペアを決めました。年間を通じて、遊びや生活のあらゆる場面で交流がもてるようにしてきたことで、子どもたちはペアの友達への親しみを深めています。

4月は、入園したての年少組の身支度を手伝ってあげても、思いが伝わらず、四苦八苦していた年長組。最近では、すれ違えば声を掛け合ったり、「ペアの子はどうしてるかな？」と保育室を覗きに行ったり…お互いのことが大好きになり、くっつかずにはいられない姿も見られます。年間を通じて同じ友だちと、年齢の枠を超えて交流することで、やさしい心が育まれています。



▲3歳児から5歳児まで、子どもたちが自然と交流できる環境づくりや、交流が深まる活動を展開しています。ふれあい遊びでは、優しく年下の子にペースを合わせます。最後は、ぎゅーと抱き合って、自然と笑顔がこぼれます。